

ふるさとを愛し、自ら学び心豊かでたくましく生きる児童・生徒の育成

ねがい

〈目的〉

本校は小学校11名、中学校8名が1つの校舎で学び合う小中併設校として、小中学校の職員・児童生徒が協力して学校行事に取り組むことで、伊吹島の活性化につなぐことにしました。

〈内容〉

つながり

● 高齢者ふれあい訪問

小中学生が9つのグループに分かれて、一人暮らしの高齢者のお宅に訪問する活動を行っています。カレンダーと「はったいこ」で作ったお菓子を渡して、昔の伊吹島のことや長生きの秘けつなどについて、お話を伺いました。

高齢者の方々は、毎年子どもたちが訪問して来るのを楽しみにしてくださっています。

中学生は、事前の訪問も含めて、小学生をリードして高齢者のお宅を訪問しなければならず、あいさつの仕方や話を聞く態度などの手本を見せる場面が見られました。



【小中学生が高齢者と話している様子】

● ふるさと学習発表会

小学生は、伊吹島の偉人調べや伊吹島をPRするCMづくりに挑戦したことを披露したり、中学生は、いかだ大会や職場体験、修学旅行について発表したりしました。また、職員・児童生徒全員で、伊吹島の歌「宝物」を歌い、島の人たちに喜んでいただきました。

● 中学生による本の読み聞かせ

朝の読書の時間に、中学生が小学生に絵本の読み聞かせを行っています。小学生は、中学生が自分たちのために、選んでくれた本ということもあって、一生懸命聞いています。中学生は、小学生が笑ってくれたり、拍手をくれたりすることで、自信につながっています。学期に一回、低学年向けと高学年向けに分かれて、中学1～3年生が行っています。



【中学生による本の読み聞かせの様子】

〈成果〉

小中学校が併設校になり、学校行事を共同で実施することになりました。小中学校それぞれで取り組んできた行事を見直し、児童生徒双方の成長により効果的なものになるよう教職員で協力しあうことができています。児童生徒がともに影響を受け合いながら、いきいきと行事に取り組む姿が、地域の方々に元気を与えているように感じられます。

高まり